

学校教育課長の仕事宣言！ 進行管理表

学校教育課長 柴田昌範

重点事業の概要 [事業名：小中一貫教育推進事業] [目標値：4中学校で実施]

○この事業は、リープロ「未来を創る人を育てるプロジェクト」に位置付けられた小中一貫教育を推進するために実施する事業です。特色ある学校づくり、魅力ある学校づくりを進めるために、平成22年から基里中学校区に研究委嘱をした事業を、平成24年度から田代中学校区、平成25年度からは鳥栖西中学校区に研究委嘱をするとともに、今年度からは、鳥栖中学校校区にも研究委嘱を行っています。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	1 鳥栖西中学校区の研究発表会へ向けて、指導・支援を行った。 2 管理職研修会等をととして、各中学校区の進捗状況を確認し、各中学校への指導・助言を行った。 3 予算面を充実させ、より充実した研究ができるよう文部科学省小中一貫教育校における多様な教育システム調査研究校の補助金申請を今年度も行った。
	自己評価	1 鳥栖西中学校区では、西中校区三訓「挨拶・時間・清掃」を中心に据えた、鳥栖西スタイル（学習規律及び生活規律）の確立を目指し、児童生徒の学力向上と社会性の育成を目指すと共に、中学校入学に対する不安を少しでも和らげるため、施設分離型では難しい小学校段階での児童間交流の取組を始めた。 2 他の中学校区でも、基里中学校区や田代中学校区の成果を生かしたり、地域の児童生徒の特性を生かしたりした小中一貫教育の取組を進めることができた。 3 文部科学省からの補助金交付の決定を受け、研究や研修の充実を図っている。
	下半期への対応	1 11月21日の鳥栖西中学校区研究発表会へ向けて、指導・助言を行う。 2 小中一貫教育推進のため中学校区別の研修会を下半期も実施する。 3 小中一貫教育コーディネーターを集めた研修会を行い、情報交換を積極的に行う。
下半期	取組実績	1 11月21日鳥栖西中学校区小中一貫教育研究発表会を実施し、市内教職員を中心に約200名の参加の中、授業参観の公開と呉市教育委員会指導主事による講演会を実施した。 2 11月6日に小中一貫教育コーディネーター研修会を実施し、保護者並びに教職員の意識調査の分析と愛知教育大学倉本哲男教授の講演を行った。
	自己評価	1 鳥栖西中学校区の麓小学校と旭小学校で小学校段階における児童間交流を始めた。 2 鳥栖中学校区にも研究委嘱をし、2月12日の中間発表会で教科日本語を中心とした授業公開や講演会を行うことができた。
	目標値の達成状況	1 基里中学校区では、児童生徒間交流や乗り入れ授業等の取組みが定着してきている。 2 鳥栖中学校区でも教科日本語を中心とした小中一貫教育を始めることができています。
	次年度への対応	1 来年度に実施予定の鳥栖中学校区の小中一貫教育研究発表会へ向けて、教育委員会からも積極的に指導・支援を行う。 2 基里中学校区に研究委嘱を行うとともに、指導・支援を強化する。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

鳥栖中学校区における日本語を中心とした小中一貫教育の研究委嘱を全校に展開できるよう進めること

下半期

鳥栖中学校区における中間発表会の成果を基に、次年度の全校実施に向け取り組みを進めること

学校教育課長の仕事宣言！ 進行管理表

学校教育課長 柴田昌範

重点事業の概要 [事業名：国語力、英語力、コミュニケーション力への対応事業]

[目標値：市内12校で教科日本語の教科書を用いて言語力育成を図る。]

○この事業は、リープロ「未来を創る人を育てるプロジェクト」に位置付けられた特色ある学校づくり、魅力ある学校づくりを進めるために、児童・生徒の国語力、英会話力、コミュニケーション力を向上させるため実施する事業です。言語力を高めると共に日本の伝統文化について認識を深め、鳥栖市を愛し、鳥栖市に誇りをもつ児童生徒の育成を目指して、教科日本語の導入を進めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	1 4月の検討委員会と教科書編集部会の合同会議において、教科書で扱う題材について確認した。また、教科書部会を小学校4回、中学校2回開催し、教科書の内容やレイアウト等について検討した。 2 教科書作成に係る印刷業者の決定や写真家や弁理士等への正式依頼を行った。 3 鳥栖中学校区で教科日本語の試行を本格的に始めた。
	自己評価	1 来年度から使用する教科日本語の教科書の内容や体裁についての検討を進めた。 2 指導主事が模範授業を行ったり、教科書のもととなる原稿(データ)をほぼ完成させたりしたことで、鳥栖中学校区3校での教科日本語の取組が予定どおりに開始できた。 3 夏季休業中に市内全教職員へ向けた、教科日本語に関する研修会を実施し、教職員の理解を深めた。
	下半期への対応	1 印刷業者に教科書製本へ向けて、入稿を行い、校正等を実施し年度内に教科書の完成を目指す。 2 鳥栖中学校区での取組を市内の他校へも紹介し、来年度全ての学校でスムーズに実施ができるように教職員へ教科日本語に関する情報提供を指導主事が中心となっていく。
下半期	取組実績	1 教科書作成に係る写真家や弁理士等への各種依頼や印刷業者との打合せ等を計画的に行った。 2 教科書原稿の校正、印刷等の日程計画や、レイアウトに係る打ち合わせを3月完成へ向けて行っている。 3 鳥栖中学校区3校の教科日本語の授業参観を実施し、指導・助言を行った。
	自己評価	1 日本語教育教科書編集部会を中心に教科日本語の教科書づくりを順調に進めることができた。 2 来年度からの本格実施へ向けて、鳥栖中学校区の3校で先行して授業実践等を進めることができた。
	目標値の達成状況	来年度、すべての学校での本格実施へ向けて、教科書づくりや授業研究会等を計画的に進めることができた。
	次年度への対応	教職員への教科日本語に対する理解を深め、教科日本語のねらいに沿った授業が展開されるよう教育委員会から積極的に資料の提供及び指導・助言を行う。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

平成27年度本格実施に向け、教科書作成や授業実施体制の充実を図ること

下半期

第3回の日本語教育検討委員会において、教科書案を確定できた。今後は、平成27年度本格実施に向け、指導書等の準備を進めること。

学校教育課長の仕事宣言！ 進行管理表

学校教育課長 柴田昌範

重点事業の概要 [事業名：ICT利活用教育推進事業]

[目標値：市内12校で一体型電子黒板を活用した分かりやすい授業を実施。]

○この事業は、リープロ「未来を創る人を育てるプロジェクト」に位置付けられた、特色ある学校づくりの一つで市内小中学校へのICT機器の導入を推進し、電子教科書やインターネットを利用した授業を可能とすることで、分かりやすい授業の実現を目指すものです。児童生徒の学習への興味・関心を高めるだけでなく、ICT利活用教育の推進により、児童生徒の学力向上に努めます。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	1 情報推進リーダー研修会の実施及び機種選定。 2 電子黒板の中学校全普通教室への整備終了。
	自己評価	1 管理職及び情報推進リーダー研修会を実施し、今年度、中学校の普通学級の全教室に導入をするテレビ一体型電子黒板についての理解を深めた。 2 夏季休業中に市内中学校全普通学級の教室へテレビ一体型電子黒板の導入を終え、2学期から授業で使えるようにした。
	下半期への対応	1 中学校全普通学級の全教室に導入をした電子黒板の利用率を高めるためのデジタルコンテンツの充実を検討する。 2 来年度、小学校に電子黒板を導入するための準備を計画的に進める。
下半期	取組実績	1 デジタル教科書の2学期の活用状況について校長会で示し、積極的な活用を促した。 2 市内中学校に地理、歴史、英語(1, 2年生)のデジタル教科書を導入するなどICTの環境整備に努めた。 3 来年度、小学校への電子黒板整備に向けて計画を立てることができた。
	自己評価	今年度、中学校に電子黒板の設置やデジタル教科書を拡充させるなど、ICT機器整備や環境整備を計画的に進めることができた。
	目標値の達成状況	来年度の小学校への電子黒板導入の準備も含め、ICT利活用教育の推進に取り組める環境を整えることができています。
	次年度への対応	より楽しく、分かりやすい授業が展開されるよう、小学校へも電子黒板やデジタルコンテンツの整備を進める。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

ICTの利活用による授業の充実を図ること

下半期

来年度全小学校への電子黒板の整備を進める上で、ICT機器の十分な活用を前提とした教員研修等、利活用推進を図ること。

教育総務課長の仕事宣言！ 進行管理表

学校教育課長 柴田昌範

重点事業の概要 [事業名：食育推進事業]

- （事業の概要）食育の取組みを進めることにより、市内小中学校の児童生徒及びその家庭において望ましい食生活が実践できることを目指す事業です。
- この事業は、未来を創る人を育てるプロジェクトに位置付けられた取組み「安全・安心な教育環境づくり」を達成するために食育を推進する事業です。

時期	項目	内 容
上半期	取組実績	1 食に関する指導の年間計画を各学校で作成した。 2 1学期は食育便りを各学校独自で発行し、2学期以降は、学校給食センターから市内統一のものを発行した。
	自己評価	1 1学期はそれぞれの学校において栄養教諭や学校栄養職員が年間計画をもとに食育指導を行った。 2 給食センター稼働後の食育便りの発行等を栄養教諭や学校栄養職員の役割分担のもと、統一したものが作成でき、今後の計画を立てることができた。
	下半期への対応	1 給食センターのランチルームを活用した食育をいかに行うかについて検討する。 2 各学校へ栄養教諭や学校栄養職員が出向いての子どもたちへの指導や食育の授業を定期的実施する。
下半期	取組実績	1 給食便りで食育の大切さを各家庭に伝えることができた。 2 鳥栖市の食育の状況について知ってもらうため、PTA等による小学校給食センター施設見学を数多く受け入れた。
	自己評価	小学校給食センターの栄養教諭、学校栄養職員を中心に市で統一した食育指導を行う環境が整った。
	目標値の達成状況	給食センターの安定稼働を最優先すると共に栄養教諭、学校栄養職員を中心に計画的に食育指導を実施できた。
	次年度への対応	給食センターを拠点に各学校へも栄養教諭や学校栄養職員が出向きながら、今後さらに食育を推進していきたい。

所管部長（リープロ担当部長）の指示

上半期

給食センターが食育推進の拠点となるよう、検討を進めること

下半期

本年度の給食センター稼働実績を基に、学校等での食育推進事業等の推進を図ること。